

子ども達の活動の幅を広げる「クラブ活動」の実施

取組の背景・目的

【背景】職員の入替わりもあり、こども達の自主的な「やりたい！」という気持ちに児童館としても職員としても応えてあげたいという気持ちがより高まったため。

【目的】①時間・スペースに余裕のある夕方の時間帯に子どもたちの「やりたい活動」を児童館の中で保障・展開していく。

②高学年～中・高校生児童の居場所の拡充

③子ども達の意見・要望を聞き取り、児童館活動に活かしていく。

取組の概要

【実施時間】月～金曜日 17:00～17:45

【実施場所】工作室

【対象学年】小学校3年生～中・高校生

【申込方法】「児童館クラブ活動申込用紙」に「メンバー・やりたいこと・やりたい曜日・準備して欲しい材料・職員との打ち合わせ希望日時」など必要事項を記入し申し込む。職員との打ち合わせ後に活動を開始する。

【実施内容】

第1期 子ども達の自主的なクラブ活動

「レジンクラブ・縫い物クラブ・おしゃべりクラブ・美容クラブ・演劇演奏クラブ」
小学3～6年生の仲の良い子ども同士が誘い合い、クラブ活動を実施。女の子が身に着けるようなものを作る活動が主だった。

第2期 おしゃべり・おやつクラブ

仲の良い子ども達が3人以上集まったら、ちょっとしたおやつを食べながら好きな話が自由にできるクラブ活動。但し、児童館への要望・希望を必ず1つはあげてもらおう。子ども達にくつろげる時間を提供しつつ、子ども達の児童館への要望を聞き取り、児童館活動に活かしていく。

第3期 冬休み特別クラブ活動

「平日の夕方は忙しくて人数が揃わない」という子ども達のニーズに応え、工作活動を行っていない冬休み期間の午前中や午後の早い時間帯に実施した。

第4期 職員主導のクラブ活動

第1・2期の活動も保障しながら、職員の特技を生かし、職員が主となるクラブ活動。仲間同士の活動というよりも1つの目的を持って集まった子どもたちに対して行うもので「かぎ針編みクラブ」「ダーツクラブ」「アクセサリークラブ」「科学実験クラブ」「将棋クラブ」「カードゲームクラブ」と多様なクラブ活動が実施された。

工夫点・留意点

- ・場の保証を担保しつつも子ども達だけの時間にならないように配慮した。
- ・「クラブ活動」といっても、時間と場所が限られているため、実施前にどのような活動ができるかイメージしやすいよう事例を多数挙げた。
- ・対応できる職員が複数いたため、子ども達が望んだクラブ活動により適した職員が、「顧問」のような役割を担った。また、職員が休む場合には事前の引き継ぎを丁寧に行った。
- ・「職員主導のクラブ活動」は職員5人にそれぞれの持ち味があり、各職員の特技が生かせるよう子ども達に教たいものを事前に募った。また、職員それぞれの言葉で募集ポスターを掲示したり、職員からの声かけで周知を図った。
- ・2月からは塾が新年度に入り、利用する子ども達の入れ替わりも始まるため、その時期に合わせて対象を2年生まで広げて、次年度の活動に繋げることにした。

取組の効果

- ・高学年の児童館来館動機に繋がり、クラブ活動日以外にも来館することが増えた。また、秋に行った児童館のお祭りにも積極的に関わってくれることになった。
- ・活動の中でも「演劇・演奏クラブ」は6月から1月まで半年間に亘り、週2回実施するなど、他のクラブ活動にも大きな影響を与えた。また、児童館行事の「児童館ミニミニ文化祭」や「新春お楽しみ会」の中で2回公演を実施し、子ども達の自信・成長に繋がった。
- ・職員主導のクラブ活動では、仲間だけのクラブではないため、学年や学校をまたいだメンバーが集まり、児童館ならではの交流を深めることができた。



課題・今後の展開

- ・中、高校生の来館が少なかったため活動内容が浸透しきらず、今年度は小学6年生までの活動になった。次年度は、現6年生の希望・要望を取り入れる形で、中学生になってからの利用促進を図っていく。
- ・2、3月は子ども達の参加意欲が更に高まり、連日のように活動が行われた。子ども達の期待に応えるため、また継続性の観点から新年度早々からの実施を目指していく。
- ・クラブ活動がない日は、場所と時間の活用の観点から工作室を幼児活動として利用することも考えられる。双方の活動が効果的に実施されるよう利用方法等を検討していく。